

11月になり一気に冷え込みました。朝は手がかじかんでページもめくりにくいかもしれませんが、朝の読書で落ち着いた時間を過ごしましょう。今月も図書委員おすすめの本を紹介します。今回は、海外&日本の文豪特集です。名前は聞いたことあるけれど、読んだことがないという作品もあるかもしれません。この機会にぜひ読んでみてください。



『モンテ・クリスト伯』 アレクサンドル・デュマ 著

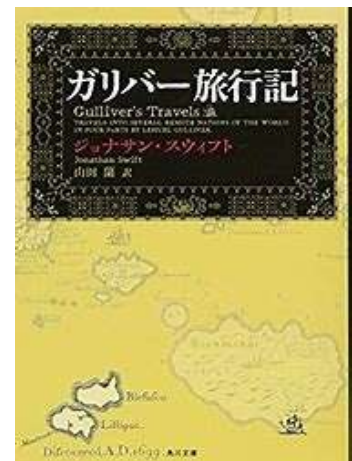
主人公エドモン・ダンテスは偽りの密告によって、14年間牢獄に幽閉されるが、脱走に成功する。モンテクリスト島の莫大な宝を手に入れた彼はその富の力によってパリの上流社会に乗り出し、かつて彼を陥れた人たちに復讐を行っていく…。

★作者のアレクサンドル・デュマは他にも『三銃士』を執筆しており、「一人は皆のために、皆は一人のために」の言葉の生みの親でもあります。

『ガリバー旅行記』 ジョナサン・スウィフト 著

小人たちの国、巨人たちの国、ラプタ、バルニバービ、そして日本……懲りずに旅を続けるガリバー。スウィフトの描く奇想天外でユーモア溢れる冒険譚はとびきり辛辣に人間社会を見つめている。

★原書はととも子供向けとは思えないほどの社会に対する鋭い風刺で満ちています。バルニバービでは対立する二人の政治家の脳みそを二つに切っつけてくっつけるなどなかなか衝撃的な話がたくさんあって、読むたびに新しい発見がある一冊です。



『雪国』 川端康成 著

親譲りの財産で、無為徒食の生活をしている島村は、雪深い温泉宿で芸者駒子と出会い、惹かれながらも愛しぬことができない…。冷たいほどに澄んだ島村の心の鏡に映される駒子の情熱を、哀しくも美しく描く。

★冒頭の「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」という一文は聞いたことがあっても、読んだことがある人は意外と少ないのではないのでしょうか。この機会にぜひ読んでみては…？

この他にも、企画コーナーで色々な本を紹介しています。ぜひ図書館に来て本を借りてください！